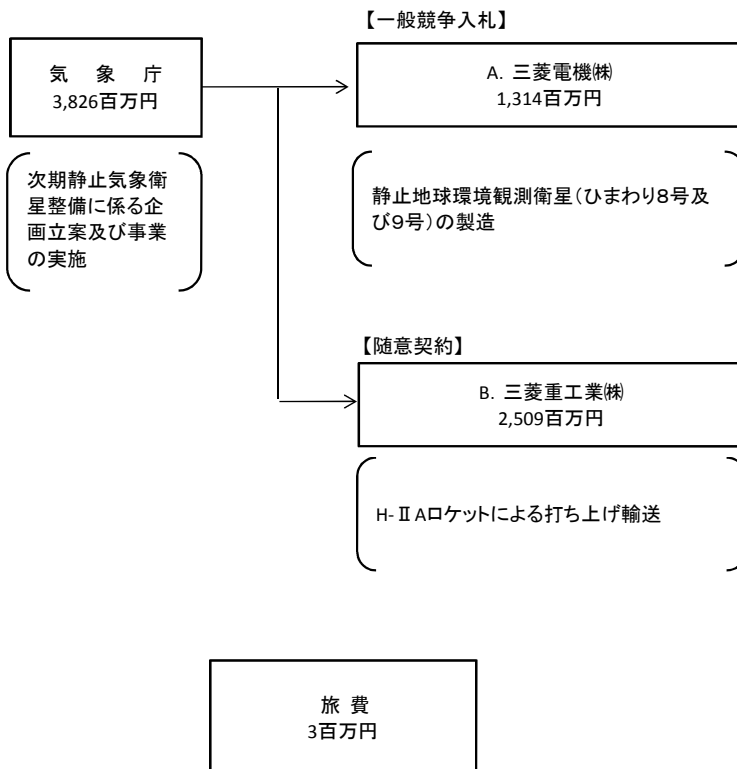


平成25年行政事業レビューシート (国土交通省)

事業名	次期静止気象衛星整備		担当部局庁	気象庁		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成17年度～平成28年度		担当課室	観測部気象衛星課		課長 大林 正典		
会計区分	一般会計		政策・施策名	4 水害等災害による被害の軽減 10 自然災害等による被害を軽減するため、気象情報等の提供及び観測・通信体制を充実する				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	気象業務法 (第3条、第4条、第11条 他)		関係する計画、通知等	防災基本計画(昭和38年策定) 宇宙基本計画(平成21年策定) 世界気象監視計画(WMOによる昭和38年開始)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国民の安心・安全に寄与する防災情報の作成及び地球環境の監視に欠かせない次期静止地球環境観測衛星を平成26・28年度に打ち上げるための整備を着実に推進する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	観測手段が少ない太平洋上からユーラシア大陸まで広く包括的に観測するため、次期静止地球環境観測衛星を整備する。現在運用しているひまわり6号・7号の運用期間が満了する平成27年度までに後継となる衛星を整備する必要があり、平成21年度から次期衛星のひまわり8号及び9号の製造に着手している。 なお、観測データは台風監視等の防災上の観点から重要なデータであり、機器故障等によるデータの欠落を防ぐためのバックアップ体制として、次期衛星においても引き続き2機体制を維持する。また、静止気象衛星の運用期間は、現行衛星では1機当たり5年であるが、次期衛星では1機当たり7年に延ばす。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		補正予算	7546	6814	7072	7029		
		繰越し等	0	1044	0	0		
		計	0	-498	-3246	3744		
	執行額	7546	7360	3826	10773			
	執行率(%)	7545	7360	3826				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		成果実績	単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	現行衛星ひまわり7号の運用期間が平成27年度に終了するため、防災上重要な衛星の観測データが欠落しないよう次期衛星ひまわり8号を平成26年度に打ち上げ、平成27年度の運用開始を目指す。また、バックアップとして、ひまわり9号を平成28年度に打ち上げ、平成28年度中の運用開始を目指す。			-	-	-	-	目標:運用開始 ひまわり8号 H27 ひまわり9号 H28
	達成度		%	-	-	-		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		活動実績 <small>(打上げ輸送サービス)</small>	単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	次期衛星製造・打上げ業務進捗率			(製造)	60.7%	87.8%	92.9%	—
				(当見込み)	()	()	()	()
単位当たりコスト	1,913(百万円/機)		算出根拠	24年度予算執行額/24年度衛星機数				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	職員旅費	3						
	静止気象衛星製作費	7026						
	計	7029	0					

事業所管部局による点検					
	項目	評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。	○	・観測データは、台風や集中豪雨等の自然災害による被害の防止や軽減を図るために用いられており、広く国民のニーズがあり、政策の優先度が高い事業である。 ・次期衛星の管制・運用について、PFIを導入し、民間の資金及び能力を活用する。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	・次期衛星の製造に当たっては、一般競争入札を導入し、競争性の確保に努めている。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	—			
	単位当たりコストの水準は妥当か。	○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	—			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○			
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	—				
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	・次期衛星の製作は順調に進んでおり、着実な成果を上げている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	—			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	—			
	事業番号	類似事業名			所管府省・部局名
点検結果	<p>静止地球環境観測衛星は宇宙空間において長期間の運用を行うものであり、精密性及び堅牢性を求めるため1機当たり5年程度の製造期間が必要である。次期衛星を平成26年度及び平成28年度に確実に打ち上げるためには、事業を継続する必要がある。</p> <p>また、事業の実施に当たっては、衛星の製造において、一般競争入札により請負業者を決定し国庫債務負担行為を活用して複数年度契約を行うとともに、各年の事業進捗に応じた支出を行うなど、無駄のない予算執行に努めている。</p>				
外部有識者の所見					
行政事業レビュー推進チームの所見					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年	507	平成23年	484	平成24年	515

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.三菱電機(株)			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
備品	静止地球環境観測衛星(ひまわり8号及び9号)の製造	1,314			
計		1,314	計		0
B.三菱重工業(株)			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
委託	H-II Aロケットによる静止地球環境観測衛星の打上げ輸送	2,509			
計		2,509	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	三菱電機(株)	静止地球環境観測衛星(ひまわり8号及び9号)の製造等※	1,314	4	84.11
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※ 複数年度契約であって、24年度より前に契約を行ったもの

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	三菱重工業(株)	H-II Aロケットによる静止地球環境観測衛星の打上げ輸送※	2,509	随意契約	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※ 複数年度契約であって、24年度より前に契約を行ったもの